ご自由にお持ち帰り下さい。

萌

もえる

WINTER,2009
NISHI YOKOHAMA INTERNATIONAL HOSPITAL

Japan Council for Quality Health Care
日本医療機能評価機構

INFORMATION

関節外科センターのご紹介

VOL. 38

医療法人 横浜博萌会 西横浜国際総合病院

特集

温まる、温める―寒い冬、体を上手に温めてぽっかぽか

子どもから高齢者まで無理なく安全 誰でもエクササイズ ～尿失禁を予防するエクササイズ～

ここがポイント！家庭療養 ～高度な医療機器の取り扱い～

関節外科センター開設

当院は、昨年9月に開設20周年を迎え、より地域に根ざした病院となるよう「電子カルテ導入」「回復期リハビリテーション病棟開設」「DPC（診療報酬包括請求）に参入」と施策を実施しました。2009年4月には、既存の急性期の治療を行う整形外科とは別に、人工関節置換術を行う専門科として「関節外科センター」を開設いたします。

今回お招きした大久保俊彦先生は、人工関節手術を自ら2000例近く執刀なされた、まさに関節外科の真のスペシャリストであります。前任の病院でも、多くの手術をされておりましたが、急性期疾患治療にも忙殺され、関節外科に専念できない状況でありました。

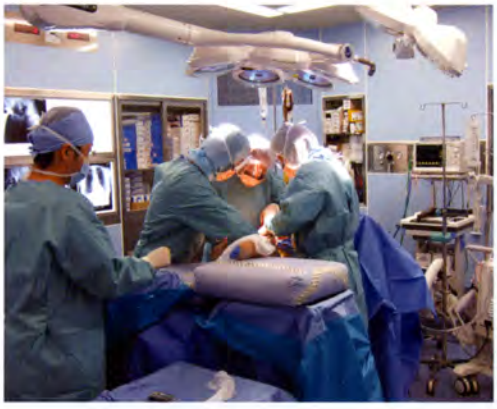
当院では、既存の整形外科チーム、人工関節は関節外科チームとし、両チームが時には協力し合い切磋琢磨し、相乗効果により、整形外科といえば西横浜といわれるような病院を目指しております。

どんな名医であろうと、独力でその技術を身に付けることはできません。多くの患者様の協力と多くの恩師、先輩の指導により身につきます。これからは、大久保先生もその豊富な知識と経験、優れた技術を社会、地域に還元し、後輩に伝承する必要があります。

当院では、その環境を提供し、地域の皆様が優れた医療の恩恵に授かれるよう努力して参る所存であります。

高度な技術と豊富な経験を必要とする人工関節置換手術

人の関節は、35歳頃から年齢と共に老化していきます。特に、体重のかかる関節の変形がひどくなると歩けなくなったりします。高齢化社会へ向けて、現代では「自力で移動できない事」は、生活の質を落とす、とても辛い事です。壊れた関節を、そしてその機能を取り戻すことは、あきらめかけていた元気な時代へかえる大切な手段といえます。すり減ってしまった関節表面の悪い部分の骨を取り去り、それを金属とプラスチックなどの人工のものに取り換えて、痛みのない日常生活へ戻っていただく、その手段が人工関節置換手術であり、若い方には骨きり術（自骨手術）です。当院の関節外科センターでは、主に、股関節、膝関節を行います。



現在、日本で1年間に行われる人工股関節手術は約6万例、人工膝関節手術は4万例です。人工関節置換術の適応年齢は、40～90歳と幅広く、患者様の体格や骨の強度はそれ

〝何事も100パーセント主義〟

関節外科センター長
大久保 俊彦

亡き父の座右の銘であり、私の治療方針の原点です。父は、戦時中、上司であるドイツの化学者にかなり絞られ、十分な仕事とは何かを教えられたと申しておりました。人間、死ぬ気でやれば、何かが変わるもので、父が必死で学んだ結果として、現在でも設立した会社が生き残っているのだろうと思います。18年前、父は変形性股関節症の末期となり、私が手術を致しました。その時、まさか親の手術を自分で執刀するとは考えてもいませんでしたが、不思議な縁を感じ、自分の仕事の目標を神から示されたように思いました。

早いもので、私が医師となって25年以上が経ち、横浜市立大学整形外科入局以来、行く先々の病院で、幸運にも関節外科の高名な先生方の教えを受け、自然に身についた技術が大切な宝となりました。それを基盤に発展させ、今回、縁あって西横浜国際総合病院に、関節外科センターを立ち上げることになりました。年間執刀240件を続けていくには、何事も100パーセント主義で行うことで、結果として、患者様から安心して医療を任せていただけるという信用が一番と考えております。〝先生に手術していただいて良かったです〟の一言を戴く事が、医師冥利に尽きることで、これからも大切にしていこうと思っています。

大久保俊彦医師
日本整形外科学会専門医
日本リウマチ学会専門医
日本整形外科リウマチ認定医
義肢装具適合判定医

ぞれ違ってきます。常時5種類の人工関節を全サイズ用意しており、個々の患者様に適した人工関節を選択いたします。今後も新しい人工関節手術が生み出されるでしょうから、年々手術を改善していく努力が必要です。また、感染や脱臼、肺塞栓などの合併症を出さないようにしなければなりません。数千例以上の手術をしても初めて経験することもあるくらいといわれます。

また、適切な手術後は、リハビリテーションやエクササイズが有効とされます。その点では先生は、自らNPO法人の骨・関節研究会を設立し、理学療法士らと連携し、運動療法の指導も行い、患者様の長期的フォローも実践なさっております。大久保先生の診療をご希望の方は、予めお電話にてご予約くださいますよう、お願いいたします。

人工股関節の模型

手術支援器械、―ナビゲーションシステム―

院長 小松 永二

救急救命士 Emergency Medical Technician

命を救う的確な応急処置 業務範囲は拡大の方向

救急救命士は、救急車で傷病者を医療機関に運ぶ際に、医師の指示に基づいて救急救命処置を施すことのできる国家資格です。救急救命士法に定められており、消防機関の救急車には、最低1人が乗車する体制をとることが目標となっています。

救急隊員は全国に約5万9000人いますが、このうち救急救命士は約2万人です（人数はいずれも2007年4月現在）。

救急救命士になるためには、法で定められた救急救命士養成所（消防機関の養成所、または専門学校・大学）で学び、国家試験に合格しなければなりません。

救急救命士は医師の指示に従って、いくつかの応急手当てをすることができます。嘔吐物などで呼吸が妨げられないようにする気道確保、脱水症状や出血に対応するための輸液を点滴する静脈路確保、除細動器による心拍の回復などです。

救急の現場では、一刻も早い適切な処置が傷病者の命を救います。救急医学のさまざまな研究からも、病院へ搬送するまでの処置が大切であることがわかってきました。救急救命士に寄せられる期待は大きなものがあり、業務の範囲も拡大する方向にあります。

例えば、気道確保の手段の1つである気管挿管は、以前、救急救命士には認められていませんでしたが、今は医師の具体的な指示のもとに認められるようになりました。

また、点滴に関しても、以前は電解質輸液製剤である乳酸リンゲルしか認められていませんでしたが、現在は一定の研修を受けた救急救命士は、医師の具体的な指示のもとに、心拍再開のための強心剤であるエピネフリン（アドレナリン）を使うことができます。

さらに、器具の進歩で、一般の人でも使える自動体外式除細動器（AED）が登場し、救急救命士も自らの判断でAEDを使っています。

トリアージ Triage

多数の傷病者を救うため 治療に優先順位を付ける

トリアージとは、地震、爆発事故といった大規模な災害やテロなどが起きたときに、適切な処置や救急搬送を行うために、傷病者の治療優先順位を決めることです。治療（トリートメント）、搬送（トランスポート）と並んで、救急で重要な3つの「T」の1つとされています。

大事故や大規模災害では、多数の傷病者が出ますが、対応できる救急搬送体制や救急医療機関は限られており、1人でも多くの人に適切な処置を受けてもらうためには、優先順位をつけて効率的に取り組む必要があります。本来、医療はすべての人が等しく受ける権利のあるものですが、緊急事態である以上、優先順位を付けるのはやむを得ないという考え方が根底にあります。

日本ではこれまで、大地震、鉄道事故、大規模な被害が出た犯罪などの現場でトリアージが行われてきました。一刻も早い救急救命活動が必要な現場において、瞬時に適切な判断を下すことは簡単なことではありません。

災害現場で救助された負傷者は、トリアージ実施責任者によって4つの区分に分類されます。分類結果は、負傷者の体に輪ゴムで取り付けられる色別の札（トリアージタッグ）によって示されます。

優先度の高い順に、赤、黄、緑、黒です。赤（重症）＝生命にかかわる重篤な状態▽黄（中等症）＝すぐに生命にかかわる重篤な状態ではないが、早い措置が必要▽緑（軽症）＝負傷しているが救急搬送の必要はない状態▽黒（死亡）＝死亡もしくは、明らかに救命不可能な状態。

トリアージタッグには、意識、呼吸、脈拍、血圧、負傷部位などを書き込むことができ、簡易カルテとしても活用することが可能です。

病院理念 安全・安心の医療―患者様と共に―
基本方針 良質な医療の提供・地域医療への幅広い貢献・生命と人権の尊重

診療受付時間	平日・土曜とも	午前 7：30～11：30
	平日のみ	午後 0：00～ 4：30
診療開始時間	午前 9：00～	午後 1：30～(平日のみ)
救急外来	救急・急患の方は24時間の診療体制	
予約診療	内科	午後の診療は、一部予約診療を実施。ご予約は内科外来受付又は、電話にて受付
	整形外科	午後の専門外来は予約制
	関節外科	予約制

診療科目 内科(一般・循環器・呼吸器・腎臓)・外科・消化器科・脳神経外科・整形外科・関節外科・小児科・眼科・耳鼻咽喉科・婦人科・皮膚科・泌尿器科・精神科・麻酔科・リハビリテーション科

人工透析センター

◆総合病院としての利点を活かし、各診療科との連携の下で、合併症等へ適切に対応、検査・入院が可能です。
◆腎臓内科の常勤医が3名おり、透析診療の他、毎日腎臓内科外来診療を行っています。
◆無料送迎を始めます。(4月から)
◆旅行・帰省時の臨時透析も対応いたします。

長谷川理透析センター長(腎臓学会指導医・透析医学会指導医)
山本弓月医師(透析医学会専門医・腎臓学会専門医)
築取誠医師

■ご相談・お問い合わせ(他施設からの転院ご希望の方)
TEL:(045) 871－8855(代表)透析センター・地域医療連携室

＜腎臓内科外来診療担当表＞

	月	火	水	木	金
午前		築取	山本		山本
午後	築取			長谷川	

※土曜日は、診療はございませんが、急患の場合には対応させていただきます。なお、4月からは診療体制が変わりますので、予めお問い合わせください。

職員募集

私たちと一緒に働きませんか

■看護師・保健師

安心・安全で信頼される質の高い看護を提供
…患者様も私達も納得の看護…

◆全員が院内外研修に参加。
・研修参加費用は病院負担、勤務扱いです。

募集部署:急募 外来、一般病棟・透析センター・訪問看護
＊ 常勤・非常勤は問いません。
＊ 新卒・既卒ともに募集中です。
＊ 病院見学は随時お受けしております。

■訪問介護員(ホームヘルパー)

＊ 戸塚区・泉区・栄区内の在宅訪問介護。
＊ 介護福祉士・ヘルパー2級の資格をお持ちの方。
＊ 常勤・パート勤務については委細面談。

■リハビリテーション部

平成21年度リハビリテーション事業拡大につき急遽再募集します。

1. 理学療法士(既卒・新卒)
①回復期リハ病棟 ②外来勤務(急性期) ③デイケア
2. 作業療法士(既卒・新卒)
①回復期リハ病棟 ②外来勤務(急性期) ③デイケア
3. 言語聴覚士(既卒・新卒)
①回復期リハ病棟 ②外来勤務(急性期)

＊ 20年6月回復期リハビリテーション病棟開設。
＊ 病棟ではチームアプローチを採用。電子カルテシステムによる情報共有化をはかり、共通の目標設定、ADL回復を高め、早期のご退院を目指しております。
＊ 教育研修には力を入れ、院内外研修に参加可能。
・研修参加費用は病院負担、勤務扱いです。

資料請求・お問い合わせ等につきましては、総務課までお願いします。

院内ご意見箱
正面玄関・外来公衆電話横・地下レストラン前・病棟デイルームに設置

皆様からの貴重なお声に耳を傾け、サービス向上委員会では改善策を考え、そのご報告は院内に掲示させていただいております。どうぞお声をお聞かせください。

(財)日本医療機能評価機構認定病院 Ver.5 認定第GA220-2号
医療法人 横浜博萌会 西横浜国際総合病院
〒245-8560
横浜市戸塚区汲沢町56
TEL.(045)871-8855
http://www.nishiyokohama.or.jp

表紙写真:木瓜の花

萌 2009年冬号 発行 西横浜国際総合病院 編集 日経メディカル開発